

ボートフィッシング

2019年12月14日(土) -いわき沖-

昨年から、船でのスロージギングにはまり、月一くらいで茨城県の平潟港から遊漁船に乗っていましたが、今年の春に知人がボートを購入。震災前も所有していましたが津波で流出。さらに原発事故の影響もあって、現在まで購入できずにいましたが、ついに再購入となりました。聞いたところ、震災前は、港周辺の防波堤をルアーで打ってスズキを釣っていたとのこと。ジギングはほとんどやっていなかったらしい。もっともスロージギング自体は比較的新しい釣り方なので、当時は流行っていなかったのかもしれませんが。話をしていた中で、興味を持って頂いたので、一緒に乗せてもらいジギングにチャレンジすることになりました。しかし、沖に出たことがあまりないので、ポイントが全く分かりません。GPSの海図を頼りに、磯らしいところを狙い行き当たりばったりで狙うことを何回か繰り返すうちに、日によっては、キツネメバルやアイナメなどの根魚がたまに釣れてくるようになりました。それでも、魚探で判りやすい荒い磯を狙うしかないので、ジグのロストが激しく、一日5本もロストすることも……。これではたまらないので、ダイソーのジグをパイロットに使って、根掛かりが少ない時だけ本物の？ジグを投入する作戦に切り替えましたが、本命のヒラメにはちょっと小さい感じ。私は、運よく何枚かゲットしましたが、船主は、ヒラメの強烈な引き込みにも苦戦。磯が荒いこともあって、リーダーを切られサヨナラ~こうなると、どんな釣り人でものめりこむのは必至！さらに、マダイを釣りたい！ということで、私も初めての一つテンヤを始めることになりました。いつも一緒に乗船しているSさんもどんどん釣りにはまり、次々にタックルを揃えることに……

さて、前置きがすっかり長くなりますが、今回の釣行は、時期的にヒラメは厳しい状況。夏の間浅いところに多く分布していたヒラメは、秋の時化をきっかけに沖に分布域を広げます。もちろん、冬でも浅いところに分布する個体もいるので、可能性はゼロではないのですが、確率はぐっと下がってしまいます。

港では、遊漁船がちょうど出港の時間で、2隻ほどが沖へ向かっていきます。天候は、そよ風は吹いているけど、今のところ大丈夫そうだ。早速、沖へ向かう。とはいっても、我々は、水深20~30mの浅場。まずは、真っすぐ沖の磯場へ。ここは、知人のボートがマダイを釣ったポイントらしい。そう、今回は一つテンヤでマダイが狙いです！魚探で反応を探しますが、それらしい反応は皆無。いくつかある磯の上を縦断してみるけどやはり反応はない。仕方なく、南側の何時も磯に行ってみることに。ここも魚探反応はないが、試しに磯の間を流しながらテンヤを落としてみる。すると、船中、当たりが連発。中々掛からない中、Sさんが小型のマダイをゲット。居ることが判れば、俄然やる気が出てくるものです。しかし、毎回当たりはあるものの、餌だけが取られてしまいます。さらに、風と潮が早く、あっという間にボートが流されてしまいます。今までで一番早いかも。パラシュートアンカーがほしいところ。何度か流し直しているうちに、タイラバに切り替えたIさんが良型のアイナメをゲット。人生初のタイラバフィッシュです。ようやく私に釣れたのはキツネメバル。乗らないまでも



150HPのガソリンエンジン。快適なクルージングです。



オーナーも良型をヒット！



テンヤでホウボウゲットです
コンディションの良い美味そうなホウボウ



Sさんはテンヤでマダイゲット

一つテンヤは驚くほど当たりが出るので、これはこれで楽しい。一つテンヤの竿を持っていない私は、ライトシーバスロッドとアジングの竿を用意してきました。シーバスロッドは硬すぎて当たりを弾いてしまう感じ。アジングロッドは、当りは明確に分かるのですが、いかんせん柔らかすぎて合わせが効かない感じ。やっぱり専用ロッドがほしいところ・・・でもこれ以上上げるのは・・・その後も、時折向こう合わせ的な感じで、ホウボウやキツネメバル、そして、一応タイ科の魚チダイをゲット。時折、ベラ（多分ササノハベラの仲間）が掛かってくるので、当たりがあっても乗らないのはコイツが犯人かもしれない。同じ磯の周辺を何度も流して、皆さん、それなりの釣果となったところで、予報通り風が強まり、餌のエビもなくなったので、終了とすることにしました。安全第一のボートフィッシングです。

今回、本格的？に一つテンヤをやってみて、餌の強さを改めて実感。もっとも小さい魚も釣れてしまうので、ジギングで大物限定の方が良いかもしれませんが、当たりがあっても乗らないイライラ感は楽しいものです。